



一般社団法人  
うるわしの桜井をつくる会  
〒633-0091 奈良県桜井市  
桜井1259エルトさくら内  
TEL&FAX:0744-43-7773  
URL: <http://lets.some.jp>  
E-mail: [lets@some.jp](mailto:lets@some.jp)

# うるわし通信

平成27年12月

架け橋美術展実行委員長 浅川 肇  
いまではハンセン病は全治する病気です。かつては、ハンセン病と認定されると、たちまち、警察力を用いて療養所へ収容され、戸籍上の姓名は抹消され、結婚しても子どもを産むことは許されず、死ぬまでそこに拘留され、死後も故郷の墓に入ることはできなかったのです。

こうした人権を全くかえりみない政策が不治の病。遺伝。という誤解を強調し、差別観の拡大再生産を助長しました。

国は2002年に従来の医療政策の重大な誤りを認め、謝罪文を公表しました。それより以前に、岡山県の長島には「人間回復の橋」として、本州との間に橋が開通しました。医学も、薬学も、政治も進化しています。

残るのは、わたしたち市民のひとりひとりの心の架け橋です。美術を通じて、その役割の一端を果たしたいと願います。皆さまのご来場をお待ちします。

## 第31回 架け橋美術展

2016年1月15日(金)～17日(日)  
10時～17時(最終日は15時)  
桜井市役所玄関ロビー  
2階大会議室 入場無料  
主催 架け橋 長島・奈良を結ぶ会  
第31回架け橋美術展桜井市実行委員会  
☎0744-42-9111桜井市人権施策課内

桜井市医師会副会長 菊川 政次  
ハンセン病は、1873年にノルウェーのハンセン博士が発見した「らい菌」の感染症です。有効な治療法がない時代には、病状が進み、顔面、手足などに皮疹および末梢神経障害などを形成しました。そのため、外見上の問題と手足の不自由による就労の困難から、住民から疎外され、宗教上も差別され、法律でも隔離などの対策がとられました。

この菌の感染力はごく弱く、感染しても発病することはきわめてまれであり、1943年以後は確実に治癒するようになりました。

厚生労働省も◇遺伝病ではない◇伝染力の極めて弱い病原菌による感染症◇乳幼児期の感染以外はほとんど発病の危険性はない◇回復した人に接触しても感染しない◇治癒する病気◇治癒したあとに残る変化は単なる後遺症◇早期発見と治療が重要、としています。

現在、全国15か所のハンセン病療養所に1,847人(2014年5月1日現在)が入所しています。ほとんどが既に治癒している元患者で、平均年齢約84.3歳です。高齢と病気の後遺症による障害、さらにかつて強制的に行われた断種手術、墮胎手術のために子供がいない元患者が多いことから、介護を必要として療養所に入所しているのが実情です。

日本で発見された日本人の新規患者は2005年にはじめてゼロになりました。

## ハンセン病回復者と心の架け橋を！！

架け橋 長島・奈良を結ぶ会事務局長 稲葉 耕一 Tel090-8447-5674

「ハンセン病って知ってるか」と県職員の田中魁さんの呼びかけで、岡山県の長島(瀬戸内海)の長島愛生園・邑久光明園を訪れました。奈良県人会の入所者の方々と交流のある鈴木京子さんら奈良県勤労者音楽協議会の人々と共に「入所者の方々とお友だちになろう」と1979年に「架け橋 長島・奈良を結ぶ会」ができた。交流が始まった。会員が広がった。

園内で趣味で美術作品を作られていた入所者の方の「作品を作っても外で発表する機会がない」と聞いたのをきっかけに1982年より架け橋美術展が始まった。始めは県都奈良市で開催してきたが、だんだん他市でも開催し、地元の支援協力も得、県内に広がり1999年の天理のときには子どもや生徒とも交流したり、現地実行委員会が主導した共催というやり方にかわってきた。

又、作品提出園は当初は長島愛生園・邑久光明園そして大島青松園だったが現在は菊池恵楓園・栗生楽泉園さらに多摩全生園に広がっている。そして美術展時には作品提出者など入所者の方々も来県し作品をともに鑑賞したり交流したり観光したりしている。

とくにこの頃、学校の児童・生徒との交流も重視されている。こんなひどい差別があったこと、正しい理解が小さい頃から大切であることを交流体験を通じて認識・啓発している。現在では会に教育部会を設けハンセン病問題学習会や教育交流会も開催している。

会員も各県各地の方々がおり全国の療養所訪問や交流もくりかえしている。会員内外に会報「架け橋」の発行配布や啓発用冊子。『昔、長島愛生園へ慰問に行つて(元県職員M)』の発行もした。

映画『新あつい壁』・『隔離の記憶①～⑬(朝日新聞連載)』・『架け橋の会30周年記念誌』・『架け橋美術展第30回記念誌』等々(残部少々カンパにて)

桜井市のみなさん、是非あなたもご入会下さい(年会費¥2,000)。回復者の方と心の架け橋を広く深くしていきましょう。自ら学び、まわりの方々に「ハンセン病問題」の正しい理解を広めましょう。作品を作り出してくれる回復者の方がいるかぎり(少数になっても)架け橋美術展を続けたいと思っている。1月の桜井での美術展にぜひ来てください。



第30回架け橋美術展の作品より

## 大島青松園訪問記

架け橋美術展実行委員 丸子孝仁

来年1月15日(金)から17日(日)に桜井市で開催される「架け橋美術展」に大島青松園からもハンセン病回復者が来られるので、実行委員長の浅川肇さんと副実行委員長で県議会議員の和田恵治さん、何度も大島へ行かれている奈良人権部落解放研究所長の大平和幸さんと共に青松園に打ち合わせに行ってきた。

12月2日午前7時半に大平さんの車で桜井市役所を出発し、11時半には高松の港に到着。昼食後、中型のフェリーで大島へ。晴天に恵まれたまま、大きな松が印象的な大島へ到着した。

まず福祉課に行き、職員にご挨拶したら、快くお迎えいただいた。島は静まり返り、道を歩いている人はいなかった。道の真ん中には白線が引かれている。これは、盲導線といい、黒いアスファルトに白い線が一番判りやすいので視力が低下している人にも見える。ハンセン病になると末梢神経がおかされ知覚まひがおこる。例えばまぶたの神経がまひすると、起きている時ばかりか寝ている時さえも、まぶたが閉じなくなる。そうすると視覚障害となりサングラスをかける人が多い。現在島内にいらっしゃる平均年齢82歳、65名の入所者も部屋で休んでいるか、病棟で治療を受けているのであろう。島の南部には元々人が住まっていたので、北側を開拓して療養所を作ったそうだ。ご案内いただいた期間限定職員には詳しくご説明いただいた。

初めに大島会館の西側の坂道を上って納骨堂に到着。納骨堂と納骨堂前にある「南無佛」と刻んだ石碑の下に納められた2,474名の入所者の方々に手を合わせて祈った。そこから北へ進むと宗教地区があり、さらに進むと石仏が並んでいる。これは、四国八十八ヶ所霊場の模型が寄贈されたもので、外へ出られなかった入所者の方達はここを巡りながら家族の健康や幸せを祈られたのだろう。石仏を通り過ぎた所に火葬場と観音像がある。全国13ヶ所の国立ハンセン病療養所で火葬場が稼働しているのは、ここ青松園だけだそうだ。その隣に三角のモニュメントがある広場があった。ここは「風の舞」というそうで、亡くなられた人を火葬にした残りの骨を納めている。約1,000人のボランティアの協力で作られたそうで、「せめて死後の魂は風に乗って島を離れ、自由に解放たれますように」という願いが込められているそうだ。

夕方から夜中まで元入所者自治会長の山本さんと、磯野さんからいろいろなお話をお聞きした。浅川さんが楠木正成の歌を歌えば山本さんも磯野さんも共に歌って共に笑った。磯野さんが「私のためにもっと長生きしてくれと言う妻も子も孫もいません。死んで泣いてくれる人もいませんが、呼ばれた時にはどこにでも行きたいと思っています。」と話されていた。その磯野さんも架け橋美術展に来られる。一人でも多くの人に出会っていただきたい。



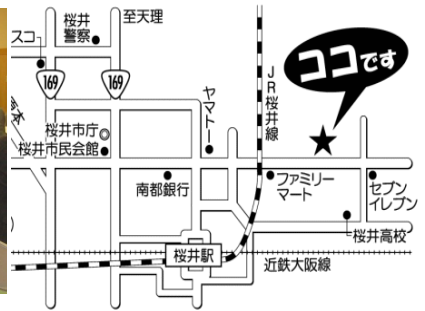
青松園内にある納骨堂



## 第5回新春交流昼食会

毎年恒例の交流昼食会を来年も開催します。久しぶりの姿や相変らずの姿を見せにやって来て下さい。多数のご参加をお待ちしています。

日時 平成28年1月31日（日）正午より  
場所 桜井市粟殿「あるぼ〜る」  
会費 ¥3,000

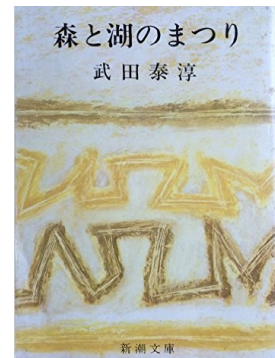


## お知らせ

### ●図書館友の会

12月の読書会は、『森と湖のまつり』武田泰淳著を読みます。男の純情、女の情熱、統一的理論は肉体を否定する。土俗的な暴力の沸き起こるアイヌの村人を支えながらも当惑するシャモ（内地人）人権差別の解消は可能か。

日時 12月20日（日）午後1時30分から  
場所 まほろばセンター市民活動交流拠点  
問い合わせ先 浅川 肇 TEL：090-1961-6345  
友の会会員以外の参加も歓迎します。



### ●歴史部会からのお知らせ

安倍地域の歴史を語る会（仮称）を来年から始めたいと思います。学説だけでなく後世に伝えたい話などをお聞かせ下さい。その準備会を下記の予定で開催します、多数のご参加をお待ちしています。

日時 12月19日（土）午後1時30分から  
場所 まほろばセンター市民活動交流拠点  
問い合わせ先 浅川 肇 TEL：090-1961-6345

**会員募集中** どなたでも(市外の方も)入会できます。くわしくは事務局まで。  
**年会費 個人 ¥2,000 法人 ¥20,000**

編集後記 今月は「架け橋美術展」の特集としました。いま歴史ファンが多い。現実に疲れ、未来に不安を抱き、ともあれ生きてきた過去の成果を視ようとするのだろうか。この趣味の段階を越えて、歴史哲学に踏み込んで頂きたい。歴史哲学の本領とするところは、過去をふり返って未来を視ようとするものであることが理解されるでしょう。

「架け橋美術展」は僅かに31年の歴史とはいえ、民衆が自主的に、自発的に作る歴史として評価されると思います。

今回、ご多忙のところ医師会からも原稿を頂きました。そのほか、多くの人々、多くの階層、多くの業種の方々から、暖かい支援の言葉で迎えられました。深く感謝します。良いお正月をお迎え下さい。「架け橋美術展」でお会いしましょう。

実行委員の皆さん、また新しい一歩を踏み出しましょう。 （あさ）

うるわし通信編集責任者  
〒633-0091  
桜井市桜井142-5-203  
浅川 肇  
TEL090-1961-6345